

クラウドナイン・クライマーズ・ネット (東京)

伊藤 忠男

http://www.angkorclimbers.net

モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



クレーン山東面山麓の小さな町、スパイラーからチエ岩を目指す、最初に出てくるガマスラブ(小川山)みたいなスラブ。子供たちの良い遊び場になっている。裏側は大きく張り出したハングの課題だがイケメンの浅井和英君が初登した。ここからチエ岩を目指すトレールの両側にはボルダーが連続するので、一帯を”チエの七柱ボルダー”と呼ぶ。チエ(阿部千依)は、本誌2009年2月号で紹介されている。



マを持ったヨッパライにロープを切られそうになったが、奥さんに耳を掴まれて退場。奥さんが怖いのは世界共通なのだ!!

チエ岩西面をラベルする僕。下は生活路になっていて、スパイラーの町とクレーン山頂上台地の集落をつないでいる。写真のように、坊主もヨッパライになるので注意。

目指せ、アンコールクライマー誕生!!

アンコールの聖山、クレーン(一) Facebook からベンのコメントが送られて来た。『ウォールに貼ったリンクを確認すべしと。辿るとプノンペンに立派なテナントビル、イエロータワーが表示された。狭い側壁に高さ25m、幅僅か2・5mの奇怪なクライミングウォールがあった。記事にはそれを作ってカンボジア人対象のクライミング体験イベントを敢行したアメリカ人男女ペアが紹介されていた。

早速連絡。しかし電話もメールもアンウンが返ってきた。2人はイベントを終えると、次の悲惨な世界へ向かったらしい。アメリカ人の典型願望、スパイダーマンみたいに。そこでまた同じことをするんだ。福島にも来るだろうか?でも日本には2011年3月、目前に迫った津波の脅威にも退かず、商用クライミングジムを開放した立派なオーナーがいた。

以前に同じようなことを僕に提案した知人がいた。でも僕はこう答えた。僕の当番じゃない、って。内戦後の平和構築に向かうカンボジアの片隅で2年間、51回に亘って僕は孤児院の子供たちにクライミングを教えてきた。愚鈍と言われれば、まあそうだ。しかし1回や2回では、子供たちは与えられた遊びとしてしかそれを体験しない。じつは時間が重要な意味を持つているんだ。やがて彼らが自らの上昇志向に気が付いたとき、遊びは一気に質を深めたからだ。量は質を変え、といった原理を、そのとき僕は目の当たりにした。

さて、ポテトは2年の職務を終え2006年暮れに日本へ帰った。彼女のカウンターパート※が

病んだように痩せてしまったという噂が流れてきたのは、その後しばらくしてからだった。さらにそれがスムロンだったと分かるとときは、三ツ星の冷やかしのネタをゲットしたとニンマリしたが、それはもつとずつと後のことだ。ポテトが消えたあと、入れ替わりに遺跡学者チエが我が家の住人になった。彼女はクレーン山での調査行で、ある岩に目を付けた。その写真をブラウザで開くと、グリットストーン(粗粒砂岩)の特異な岩塔が現れた。むむむ、ぜんぜん悪くないじゃん。クレーン山かあ。

カンボジアならアンコールワット、深田久弥さんなら日本百名山って連想するのが一般的?でも僕ならこうなる。東南アジア最大の淡水湖トンスレサップと、ヒマラヤの高峰だ。トンスレサップの感動的なその有り様は、梅里雪山を源頭に発するメコン川が雨季の溢水を逃がす自然の膨張タンクになっていることだ。そのトンスレサップ湖を、小さなボートで南からシエムリアップに向かうと、正面彼方に、ほんやりとしたわずかな盛り上がりを指呼できる。それがクレーン山だ。(続く)

※日本のODA(政府海外開発援助)を行うJICA(独立行政法人・国際協力開発機構)のJOCV(海外青年協力隊)は、被援助国での実践システムにカウンターパート方式を採用している。日本側の隊員とパーティを組む、もしくは日本人隊員を受け入れる被援助国側の人材をカウンターパートと呼ぶ。スムロンは2004~2006年までポテトのカウンターパートだった。振り返ると、そのことが「目指せ、アンコールクライマー誕生」の起点であり、定点であることに気付く。